

「探究型学習」を起点とした10代～20代の長期的つながりモデル構築事業

目的／趣旨

自分の興味関心や地元をフィールドに「探究学習」を行う高校生が、卒業&転出後も岩手とつながりながら「関係人口」として地域に関わり続けられる仕組みやモデルを構築することを目的とする。また、その仕組みが機能し続けるための中間支援モデルを検討し、実証的施策を行うことで、岩手県内の高校を卒業・転出した10代～20代の希望者が地域に関わり続けられる新たな「まなび関係人口」のカタチをつくることを目指す。

事業概要及び進捗

【1】まなび関係人口創出に向けた調査・検討

- ・岩手県内の教育機関（高校・団体等）、自治体（県・市町村）等のヒアリング調査【進捗：25団体へ調査済】
- ・モデル構築検討ワークショップの実施（産・官・学・民等から8名程度の検討チームを組成）【進捗：初回WS延期】

【2】地域をフィールドにした「探究学習プログラム」の実施

- ・高校1～2年生向け：地域とつながる探究／マイプロWS、及び探究相談室の開催【進捗：各地域プログラム開始】
- ・高校3年生向け：卒業前に地域とつながる探究／マイプロWS、及び探究相談室の開催【進捗：実施時期検討中】
- ・アムルナイ向け：卒業後も地域とつながる探究／マイプロWS、及び探究相談室の開催【進捗：リリース準備中】

【3】長期的つながりプラットフォームの構築

- ・（2）参加者を対象に、地元転出後も岩手とつながれる環境（slack等）を構築し運用【進捗：検討WSと並行検討】
- ※中間支援モデル構築、自立化や横展開に向けた検討、報告会（フォーラム等の開催）【進捗：検討WSと並行実施】

現状課題

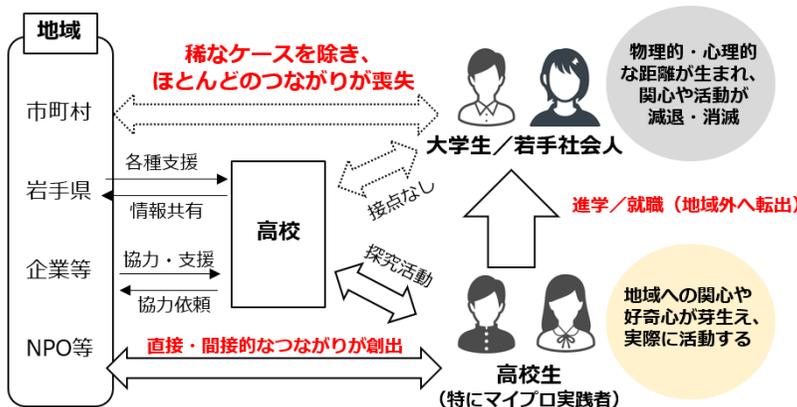
■ 検討&議論する方法

多様なステークホルダーの方々と、ベストな長期的なつながりプラットフォームの形を見出すための議論の方法やシナリオを事務局としてどのように設計していくか。

■ 体制の確立

ハンズオン支援による中間支援コーディネートを十分に行える体制をどう構築していくかが大きな懸念材料。

■ 10代～20代の「つながりの現状」



★ 10代～20代の「つながりの理想形」

